

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393600063		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム たいら金時		
所在地	岡山県勝田郡勝央町平1119		
自己評価作成日	令和 5年 10月 3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南に面した明るく広々としたホールからは、春は滝川周辺の桜並木、秋は金時祭りの花火がホールから楽しみ四季折々の勝央町の街並みが眺望できる環境に立地しています。施設の庭には薔薇や季節の花が一年中咲いており、利用者様と一緒に庭の花を玄関やホールに生け、散歩等で季節感を感じて頂いています。又排泄サイクルの把握をし、下剤は最小限に抑え、食事やヨーグルト・きな粉・牛乳・運動を中心に排便を促し、午前中はリハビリ運動に力を入れ下肢筋力・身体機能の向上に努め継続する事で自信に繋がりがり活動量も増え、心身共に活気溢れる生活をされています。又理念である第2の我が家でご自分出来る役割を持って頂き、笑顔で穏やかな時間を過ごせるように、職員は”笑顔には笑顔”をモットーに明るく優しい介護をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第2の我が家」を理念に掲げ、入居者本位の生活を大切に考えた支援に努めています。特に、朝食は一人ひとりの起床時間に合わせて柔軟に提供している点や、職員が入居者とコミュニケーションを図る際には目線を合わせ、時折、背中にそっと手を添えながら思いを汲み取ろうと関わっている姿からも、理念が実践に繋がっている様子が窺えます。また、自然な排便を促す食材の活用や、日々の運動機会も充実しており、活動的な生活を支える取り組みに力を入れている様子が優れている点と見受けられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”第2の我が家として自分らしい生活を送る事が出来るように支援します” 玄関に掲げ職員会議で周知・共有し、ケアに迷った時は基本に戻り利用者が送って来た生活スタイルを継続出来るように支援しています。	管理者は理念に沿ったケアが提供できることを大切に考えており、日頃から職員会議等で振り返る機会を持ち、理念が実践につながるよう取り組んでいる様子が見受けられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で、地域の人との交流を大切にしていますがコロナウイルス流行の為、芋煮会等地域との交流行事は中止していますが、地域のクリーン作戦には参加し地域の人との交流を図っています。	コロナウイルス流行の為、ホーム内での交流行事は中止しています。地域とのつながりや交流を大切にし、ホームが出来る事を実践(地域の文化祭に入居者作品やホームで採れた花の種を出展する等)している様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は愛育委員会の視察は玄関前となりましたが、中学生のボランティアは再開し3日間中学生が来施され、利用者との交流、認知症の理解等してもらいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年は再開し、家族様・地域の人・福祉センター職員に参加して頂き施設の取り組み等報告し意見交換させて頂き、サービスの質の向上を図っています。	地域関係者に加え、家族全員にも参加を呼びかけています。今年度から生活の様子をスライドショー形式で伝える取り組みを開始する等、状況を伝える工夫と参加者からの意見をサービス向上に活かす姿勢が見受けられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の管理者会議はコロナの中、中々開催出来ていない現状ですが、町とは事業所の実情等報告・相談させて頂き、相談しやすい関係を保っていると思います。	主に運営推進会議の機会を通じて、実情の報告や相談を行っています。日頃から連絡を密に取っており、相談しやすい関係を構築出来ている様子が窺えます。管理者会議も今年度から再開する予定にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する委員会を3か月に1度開催職員会議で周知しています。帰宅願望の利用者様と一緒に散歩して静止せず寄り添う姿勢で、身体拘束0でケアしています	言葉の抑制に関して、職員会議の中で勉強会を実施しており、身体拘束しないケアに取り組んでいる様子が窺えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止についての研修をし、虐待防止マニュアルは事務所に設置しています。身体拘束・虐待が利用者の精神状態に大きな影響を与える事等具体的に職員会議で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度・日常自立支援事業・成年後見制度について現在は該当者がいませんが、今後どのような場面にも真摯に対応も出来るように研修していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には利用者様・家族様にその都度十分な説明・同意書等頂き了解を頂いています。今後も不安や疑問にその都度しっかりと向きあえるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は再開し、家族様の面会も短時間予約・居室で可能としています。その中で意見・要望を聞き運営に反映しています。	運営推進会議の際に、家族の意見・要望を聞く機会を設けています。前回会議では、事業所便りの写真掲載を増やして欲しい、おやつに嗜好を取り入れて欲しい等の意見要望を、実際に運営に反映させている様子が見受けられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、職員会議で意見交換、職員の提案を聞き業務に生かし、より良い住まいを作るように職員の個別面談等で意見を聞き反映するようにしています。	年2回管理者との個別面談を実施しており、職員の運営に関する意見や提案を聞く機会を設けています。職員会議では、入居者の支援に関して話し合い、職員の意見提案を業務に反映させている様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状態を把握すると共に職員自己評価表・管理者評価表で評価が良いと昇給がある。 頑張れば認められ、賃金アップに繋がる為、働く意欲が上がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や性格により個人差があるが職員全体のレベル向上を目指し研修・指導・勉強会をしています。職員間で指導や指摘が出来るような関係性を作る、又外部研修は出来るだけ参加出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、コロナウイルスの為に中々持てなく、独自の勉強会の時間を確保、サービスの質の向上の取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接時には、良い印象を持って頂けるように笑顔で真摯に、且つ丁寧な対応を心掛けています。不安に寄り添い・傾聴し信頼関係を構築するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面会時・介護計画書説明時には笑顔で真摯な姿勢で対応させて頂き、家族様の利用者様への思いを汲み取り、又家族様の不安や悩みにも寄り添い気軽に相談して頂ける雰囲気作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様・利用者様の要望をそれぞれ聞き、それぞれの思いを取り込み、今一番必要なサービスを介護計画書に優先に考え作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に過ごし支え合う関係は、施設として目指す所で、利用者様は人生の先輩であり教えて頂くところは沢山あります。共に泣き笑いしながら生活させて頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・医療が出来る事、家族様しか出来ない部分も多くあります。3者の信頼関係の構築・連携して利用者の精神状態や身体状態を支えていくように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの訪問、地域のお祭りで子供神輿が来施し交流が図れるように支援しています。家族様の面会をして頂き、家族様との交流を深めています、面会後は大変穏やかな表情になられます。	地域のお祭りや、家族等の面会を通じた関係継続の支援に努めています。家族には、毎月管理者直筆の手紙を添えて、生活の様子を伝える取り組みを行っており、関係継続へのアプローチが窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のように暮らしていますが、その中で孤立される人がない様に声掛けさせて頂いています。お互い出来る人が出来ない人の世話をしたりと皆様の関係は良好だと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も家族様からはがきやラインが届き、利用者様の様子を聞かせて頂き、今は面会に行く事は出来ませんが、施設職員へ電話で様子を聞いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き、言葉に出ない思いにも気づき、其の人らしい生活が出来るように努めています。特に個々の生活リズムに沿った生活支援をさせて頂いています。	一人ひとりの言葉に耳を傾け、思いや意向を把握できる様に努めています。元気がない様子があれば、傍に寄り添い、そっと背中に手を添えて関わる等、真意を汲み取ろうと取り組んでいる様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・家族関係・病歴等をフェースシートに記載・サービス経過等を個人用ファイルに記載し職員で把握、職員会議の場を担当者会議とし、ケアの統一を図っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当を決め利用者の日頃の生活から出来る事を話し合い、役割として毎日継続出来る様に支援し、自信に繋げ活動範囲を広げて頂けるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者から利用者様の今必要なプランの意見を聞いたり、職員会議の中で担当者会議を開き全員参加で検討し介護計画書を作成しています。	家族には電話や面会時に意見を伺い、介護計画に反映させています。計画作成者は各担当職員に意見を求め、意見やアイデアを介護計画に反映させ、現状に即した内容となる様に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・結果。気づき等は個別記録に記録し、職員会議の場・日常の業務の中で話し合い今後の介護計画書に反映するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の体調・状況も違い、暮らしの要望・家族様の要望を考慮し、希望に沿った支援で穏やかな生活が出来るように取り組み、一緒に会話や散歩で気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店から食材の調達、地域の人から季節の果物や栗・柿等頂くと利用者様に見て頂き、お元気な頃つるし柿等作った話等で話が膨らむ事がよくあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の要望で在宅からの主治医を継続されている人が多いです。往診していない医療には、定期受診は家族様をお願いしていますが、車椅子の方の受診等は職員が受診支援しています。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっています。家族の付き添いで受診する場合、家族には事前に手紙等で生活の様子を細かく伝えており、適切な医療が受けられるように支援している様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W訪問看護あり、利用者様の様子気になる事を相談出来る関係があり、利用者様の異常時に対応・指示・必要時には来訪があり24時間対応可能です、必要時には受診を勧められ対応する等連携して利用者の健康を支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を医療へ提出し、定期的に面会や電話で状態を聞かせて頂き、退院時には添付書を出され連携して元の生活に戻れるように支援をさせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・看取り介護の説明と意向確認・終末期のありかたを家族様と話し合い、同意書を頂いています。同時に施設で出来る事・出来ない事の説明をさせて頂き、看取り時には家族様・医療・訪問看護・職員のチームで看取りケアをさせて頂きます。	入居時に書面を用いて重度化・看取りについて意思を確認し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っています。書面内には「今はまだわからない」という選択肢も設けてあり、本人や家族の気持ちを尊重し、状況に合わせて段階的に取り組んでいる様子が見受けられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは事務所に設置し、その都度の対応が出来るように、職員に定期的に研修・演習をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の気候変化により、災害は何時発生すらかかわからない為、利用者の安全な生活確保の為災害時の対応研修に参加・全員が対応出来る様、地域の人・消防・消防設備様に避難訓練への参加を要請し、繰り返し訓練指導を受けています。	年2回、昼夜における火災想定訓練を実施しています。消防署や設備関係者の立ち合いのもと行っていますが、避難誘導に協力を要請している地域住民役は、職員が担う形式での訓練となっています。	今後地域に対して事業所が行う災害対策について伝え、協力体制を強化する取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	たいら新聞やホール内に写真の掲載を希望しない家族様には利用者様の顔が分からない様配慮した新聞を送らせて頂いたり、更衣時や排泄介助時には居室ドアを閉め、声掛け了承を得ながら介助させて頂いています。	上から目線と印象を与えない様に、日頃から目線を合わせたコミュニケーションを心掛けています。また、起床時間に合わせた朝食提供等、一人ひとりの生活習慣に合わせた支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時に一緒に衣類を選んだり、認知度が高く理解が困難な利用者様には、自己決定がしやすいような言葉の工夫をしながら、自己決定をして頂き、自分らしい生活が出来るように支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の”第2の我が家で自分らしい生活が送れるよう若い頃得意だった事を思い出しながら出来るように支援し、業務より利用様優先で「ちょっと待って」は禁句とし「はい、今行きます」を徹底し支援をさせて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会やお誕生日・外出時には一緒に衣類を選び「綺麗ですね」「素敵ですね」笑顔が多く出るような言葉をかけて、おしゃれを楽しめるように支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみ事である為、普段から食べたい物の把握をし、季節の食材を提供するようにしています。料理前の野菜や果物を見て頂き、野菜の下準備等をして頂いています。	健康面と季節感を大切に考えた日々の食事は、入居者の食べたい物を献立に反映させています。旬の食材は調理前の素材の状態を入居者に見てもらおう等、食を楽しむことのできる工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を聞きながら、食事量・水分摂取量・体重等記載し職員が食事量や体重の把握等しています。食事の見た目や食感も配慮し、出来るだけ形状を残すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の個々に応じた口腔ケアを心掛け、出来る人には見守りで、出来ない人には準備や介助させて頂くことがあり、個々の力に応じて口腔ケアをさせて頂き、最後に綺麗になり、さっぱりしましたねと言葉かけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成・把握し、食事前後等定期的 にトイレ誘導を行っています。入院中はおし めの人も退院帰所後はトイレ誘導をさせて 頂き、トイレでの排尿感を大事にケアさせて 頂いています。	排泄チェックシートを用い、一人ひとりの排泄 パターンを把握した上でトイレ誘導や介助を 行っており、排泄の自立に向けた支援に取り 組んでいる様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	高齢者は運動量・腹圧が低下し、便秘の利用 者様が多いですが、運動・水分・食材を基 本に、毎日カスピ海ヨーグルト・牛乳にきな 粉を使い腸内環境を整え下剤を最小限に抑 え、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間予定表で入浴して頂き、お風呂の好き な人は回数をやや多めにして、利用者様の ペースで入浴出来る様に職員と1対1でゆっ くりと普段できない会話を楽しみながら入浴 して頂いています。	基本的な曜日と時間帯は決めています が、回数は週2～4回、入居者の希望に応じて 個々に設定しています。また、一人の職員が 一対一で関わる事で、ゆっくりとリラックスで きる様に配慮して取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の生活習慣を大切に、起床時間や朝食 時間は様々ですが昼食と夕食は全員一緒 に食べ、入室・入眠は個々希望する時間 にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	お薬手帳や、処方箋は職員が疑問時はい つでも確認出来るようにし、今は必要が無い と思われる、眠剤等はDrの了解のもと外さ せて頂いたりしてその後の様子観察をして います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・趣味・得意な事はフェースシートに 記載し、職員間で共有し日頃のケアに役立 ています。又個々に出来る事を役割として 毎日継続できるように準備をして生き生きと 生活出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している	コロナウイルス流行から外出はなくなりました が、施設中庭や施設周辺の散歩をして頂 き、気分転換して頂けるように支援させて頂 いています。 又、シャボン玉や花火等駐車場ですて外へ 出る機会を作っています。	行事以外の日常的な外出は減っていますが、午前中の体操に力を入れて取り組んで おり、入居者が気分転換やストレス発散でき る機会を設けています。	地域住民等の協力を得ながら、日常 的な外出支援が充実する事に期待し ます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の個人管理はなく、家族様の管理で必要なものは購入され持参されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時には対応し、携帯電話を持って入所されている方もいます。家族様には請求書送付時に施設の生活の様子を手紙に書き一緒に送付させて頂いています。又家族様から手紙が届く時もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日はベランダや中庭に出られ季節の花が一年中咲いている。ホール内にも中庭の花が生けられ、季節を感じられる展示物を掲示、ホールは南向きで明るく開放感があり皆様の憩いの場になっています。	明るく清潔感のあるホールから、中庭に咲く花を眺める事ができ、季節を感じられます。また、職員は慌ただしい雰囲気を作り出さない様に、職員間で用事がある時は近くに寄ってから会話する等、入居者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす事が好きな利用者、一人は寂しい人、話好きな人、聞き役の人と個々の思いに気付き、皆様が居心地よく暮らして頂けるように個別支援等もさせて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた茶碗・湯飲み茶わん家具等をご家族様が入所時に持ち込まれ、自宅の雰囲気のまま生活が出来るような配慮をさせて頂いています。	使い慣れた家具や好みの品物を持ち込み、本人らしさの感じられる居室空間になっています。壁に貼ってある敬老会行事時の感謝状には、温かみの感じられるメッセージが書かれており、本人が安心して過ごせる取り組みが見受けられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に障害物を置かない、歩行器や車椅子の置き場所等にも危機感を持ち、環境を整えた上で出来ない部分のみの介助で出来た事が自信に繋がり活動範囲が広がるような自立した生活を支援しています。		